

Q

母子手帳の予防接種欄にB型肝炎の項目がありますが、接種を受けた方がよいのでしょうか？

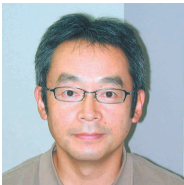
A

B型肝炎は、B型肝炎ウイルスが肝臓に炎症を起こす病気です。B型肝炎の経過は、一時的に肝臓の働きが悪くなり、だるさや黄疸がでるもののすぐによくなってしまいう急性肝炎と、ウイルスが体に残ってしまい(キャリア化)、慢性肝炎になる場合があります。慢性化すると長期にわたり治療しなければならないし、肝硬変を経て肝臓がんになる事が多くあります。また免疫を持たない人への感染源にもなります。成人と比べて3歳以下の子どもが感染するとキャリア化することが多いと言われています。

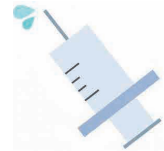
感染経路は2種類あります。まず、B型肝炎の母親からお産の時に感染する場合(垂直感染)。それと、ウイルスに汚染された血液を輸血(現在は無いと思いますが)されたり、性行為による感染の場合があります(水平感染)。水平感染は子どもの場合、原因を特定できないことのほうが多いようです。

垂直感染の予防は確立した方法があり、保険で治療を受ける事が出来ます。一方、水平感染を予防するためには唯一ワクチンを受けるしかありませんが、今まで日本では積極的には行われてきませんでした。しかしWHO(世界保健機関)から接種を勧める声明が出て、すでに多くの先進国が定期接種として実施しています。ようやく日本も定期接種に向けて準備が進んでいるようです。

ワクチンは計3回受ける必要があります。生後2カ月からのヒブ、肺炎球菌、ロタウイルスワクチンの同時接種で始める事をお勧めします。



お答え
むかわクリニック
院長 務川 靖 先生



雑記

なぞなぞです。サザンオールスターズの歌を、さもつまらなそうに聴いている花の名前は？

いぢやろ(=鼻)